

繪本三國妖婦傳 上編 一

13
2892
1



13
892
2892
1

序

源流
興隆
神

昭和九年
七月三日
購求

嘗有狐婦之傳十五卷。不識何人作混

沌判乾坤時一妖狐生一化於震旦。妲己。

蠱惑紂王而殷為之亡。太公望逐之。周

興矣。一化於印度蘇陽。白濁。現足而烟

為之危。老伯女逐之。民綏矣。一化於支那

三國大歸傳序

973
傳

廢如悉亂幽王而周爲之傾申侯逐之
周存矣四化於本邦玉藻愚魚目

鳥羽帝而龍體爲之惱秦親逐之治教

朗矣欲以宇宙西復載之際爲魔界而所之

被逐於是乎忽變一塊毒石駐認於下毛

魅氣猶驚人畜有僧源翁鎮妖云其

首尾記炳焉者也書辭欲上本之來乞校愚

操觚脩飾北馬子以丹青潤色八十五冊校

更題曰三國妖婦傳或頻覺是云子性所

著未嘗及傳會奇譚語不云乎不誇怪力

亂神此舉也爲子不取曰美女之令喪也

雖其性非妖狐而古今如同日焉人君臣庶

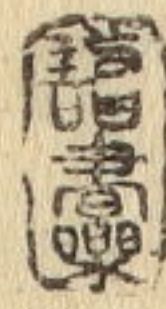
遠色如逐妖狐。近賢如同車駕。則何亡國敗家。
 有之矣。此書於是不一。無少補。若夫訊真理。
 於正籍。則一狐奚度。二豕乎妖狐。非化養女。
 及女實如妖狐也。妖獸奚變。毒石乎魅。魏祚遺。
 毒石而毒石。實有砒霜。君子何惑于斯乎。問。
 者完尔退直誌。卷端以為叙云。

繪本三國妖婦傳卷之責

目錄

- 蘇姐己殷の紂王を惑はせ 並 摘星樓の遊宴
- 妖狐壽羊女を喰殺す圖
- 妖狐壽羊女と成朝に入る圖
- 雲中子照妖鏡を以て殷の都の妖邪を知る圖

三國妖婦傳 編目録

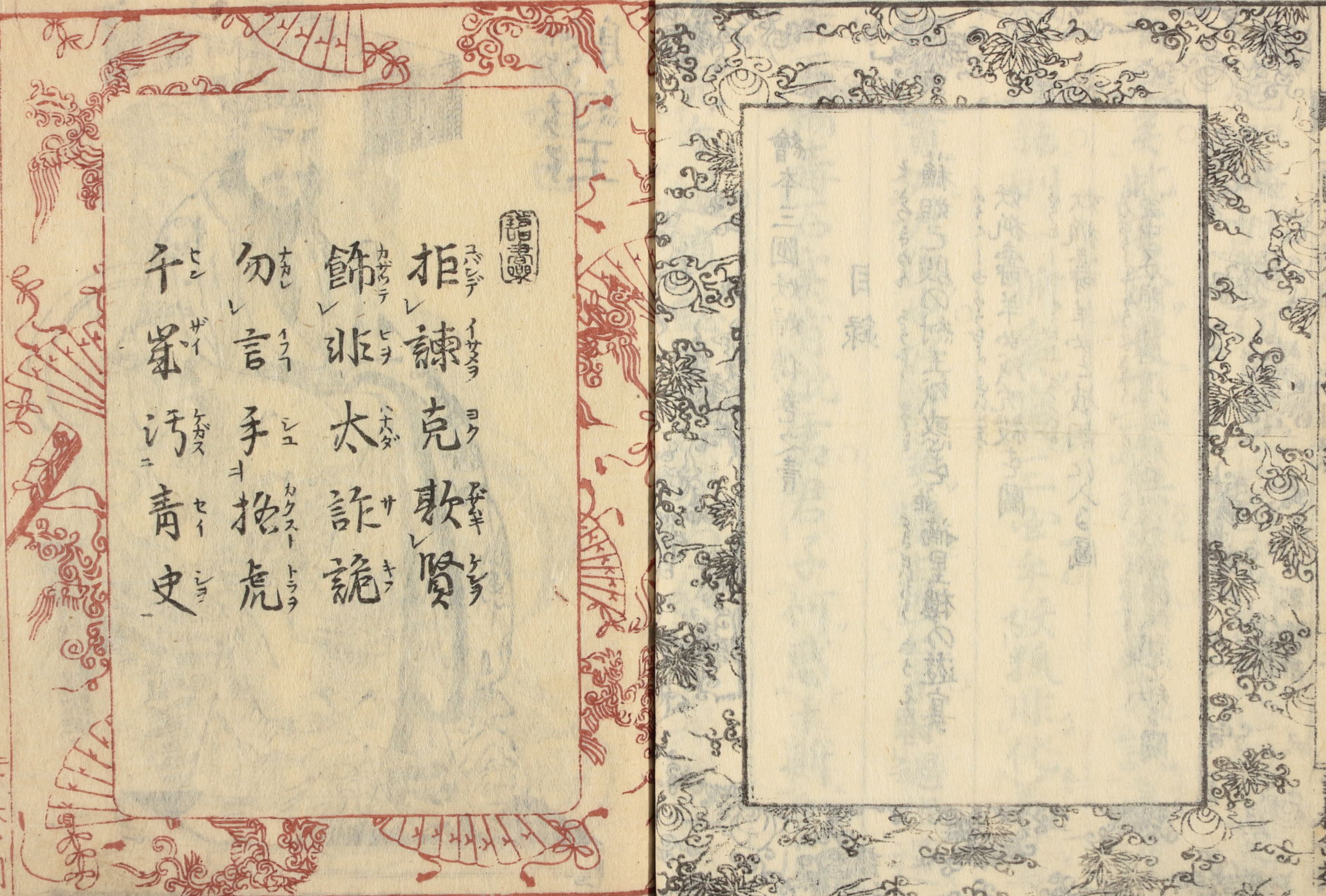


千	勿	飾	拒
峯	言	非	諫
汚	手	太	克
青	批	詐	欺
史	虎	詭	賢

目録

餘本三四...

...





イ
ン
チ
ウ
ン
ダ
殷紂王



ソ
ダ
ツ
キ
ト
蘇妲己

飛蓋酒池澳

肉林真競走

鹿臺歌舞過

殷祚為灰塵

お車示取

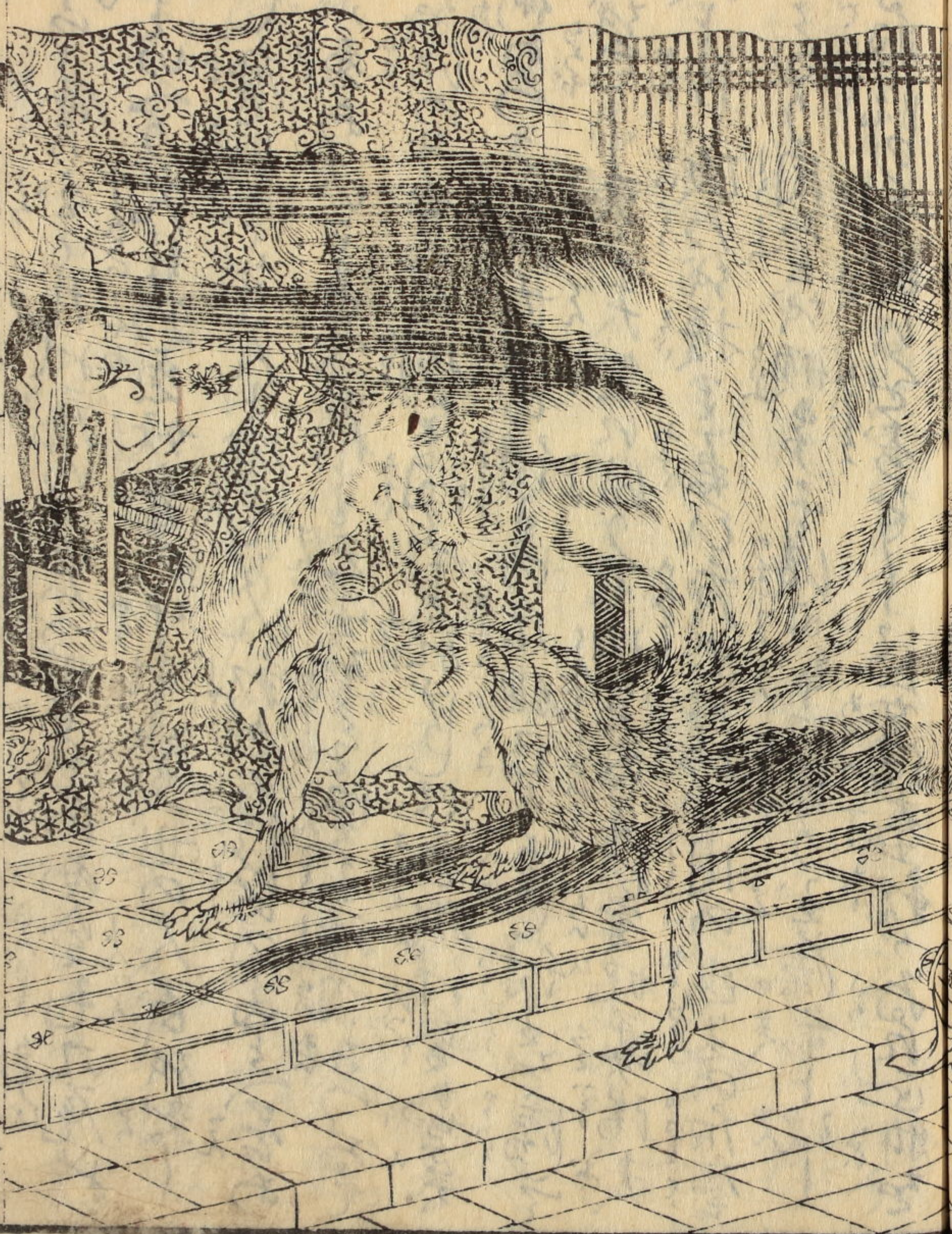
高伴寛伴圓

繪本三國妖婦傳卷之一

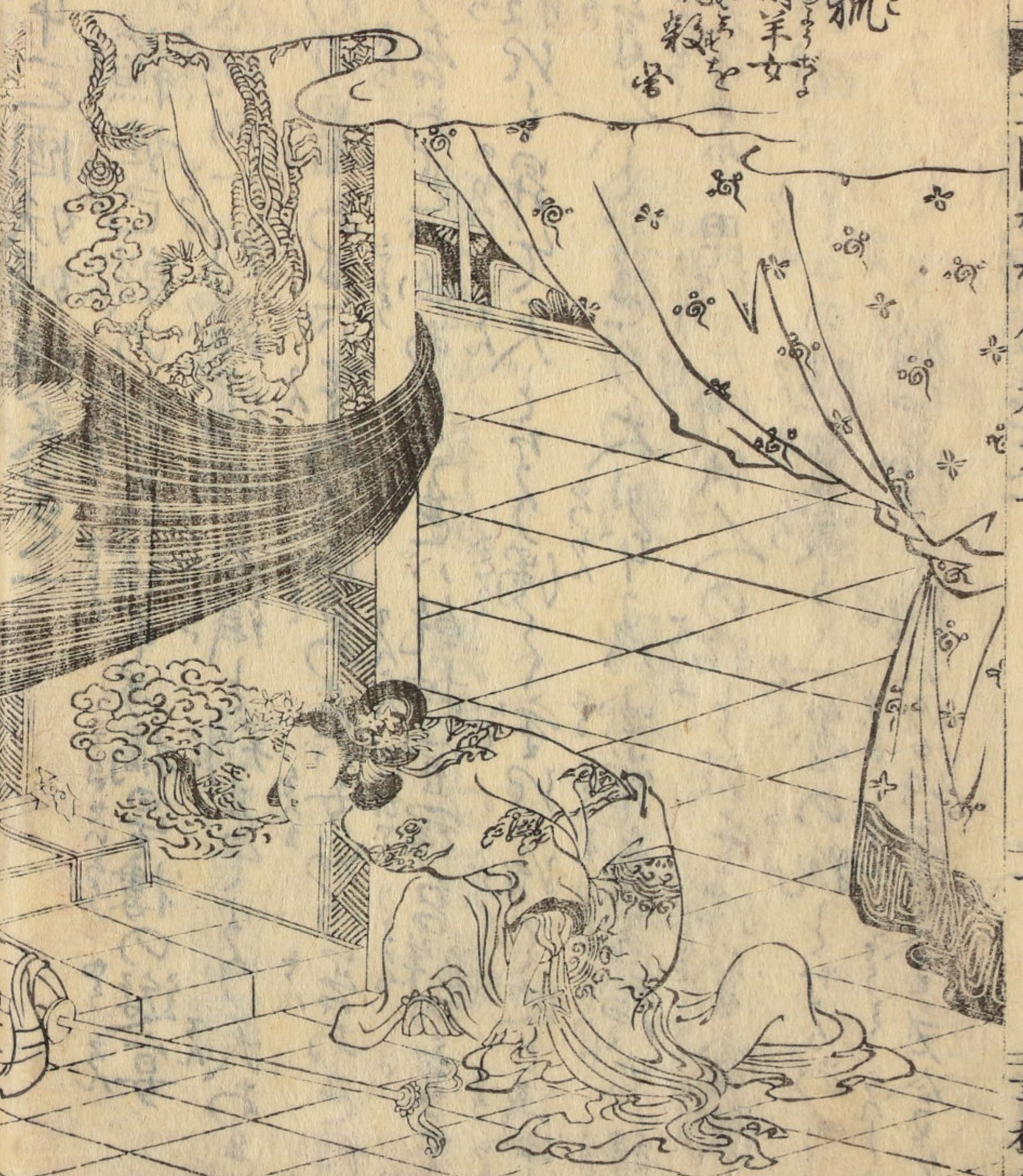
蘇妲己殷の紂王妲己を妾摘星樓の遊宴

夫太極の一理陰陽の由儀と判してより天あまは
地より暑あまは寒あまは男あまは女あまは
ありなまは凶あまは乾坤宇宙の
て怪は昇て天となり濁る守に地と成中
冥をくくたる大日月の常なる
氏天皇の思慮神人の始とて
方新時に正の陰陽漸く一
漢より母教を授け給へ

全中



妖狐
蕭羊女
吮穀



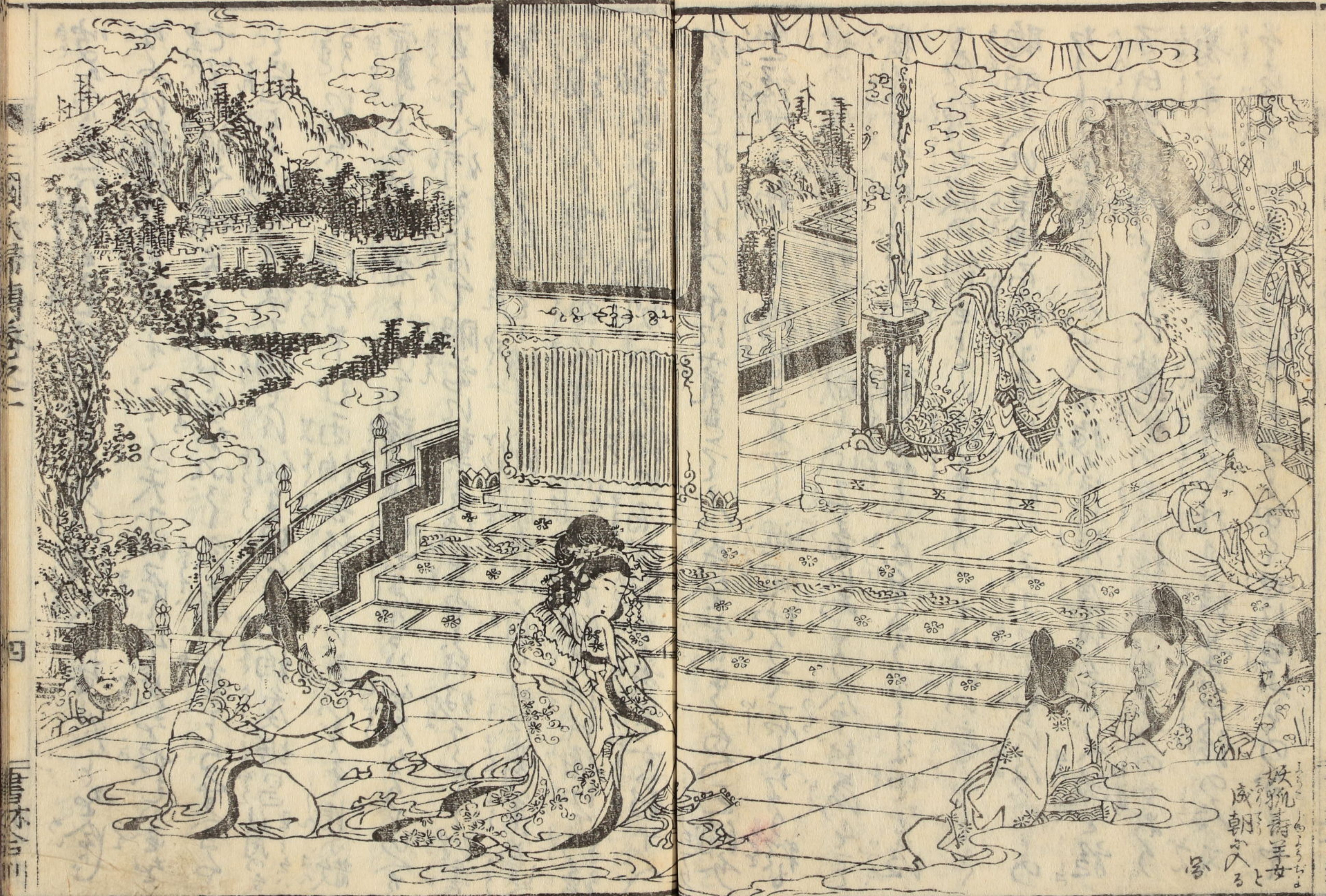
一々面ハなく九代尾崎の末づき向面合毛九尾北
 物といつ元貞形悪妖身の中なる世の人氏城教
 西(魔界)かんと流是か人教也に提議のものと君あ
 此バ悪あふいとまへされども二玉を奪る聖王神明おつるを
 玉を浴めまぐり河を何と能じりに悪物計愛喜良
 の御あつる唐土殷の討玉の所担已と(唐)討玉を(唐)と
 玉城て一夫と天竺の後りそ迦只太子れ愛妃舞陽夫
 人と号(改)及(唐)擾玉再び唐土に傳り因の幽王の所廢
 州ともり因室城傾多そ後田中に傳り玉原前と現ド
 寺相院の玉神いをまむしに安倍素戔がぬれ正神を

歌を造り次神の系に亂れそ人氏を害する也二浦舟
 上流舟小勅して將教こそ下が魂魄ゆりて石とちり移
 世のくに仇城耶一多獸をいふ毒にあらう命始あをそ
 幾多方を知るべらつて教生石といはれ舟うそそ耳中を伝
 るに唐土殷の討玉と中八湯玉より二十八代の高ふしと
 聰明人の卓誠而獲ふまる智巧て天下已が智に及ぶもの
 かりと思ひより大小八百修玉の法後城志と改を能
 百氏是試作ぐとに葉列の後獲後ハまき人の女あり
 壽羊と名くよ秋十(葉)容又結也鏡業管鏡の乃文
 ぎく(命)世の(魂)わ(び)ぎとま(ま)く世に(無)ぶ(ま)のか(一)也

一國大書...

三

三



源氏物語

四

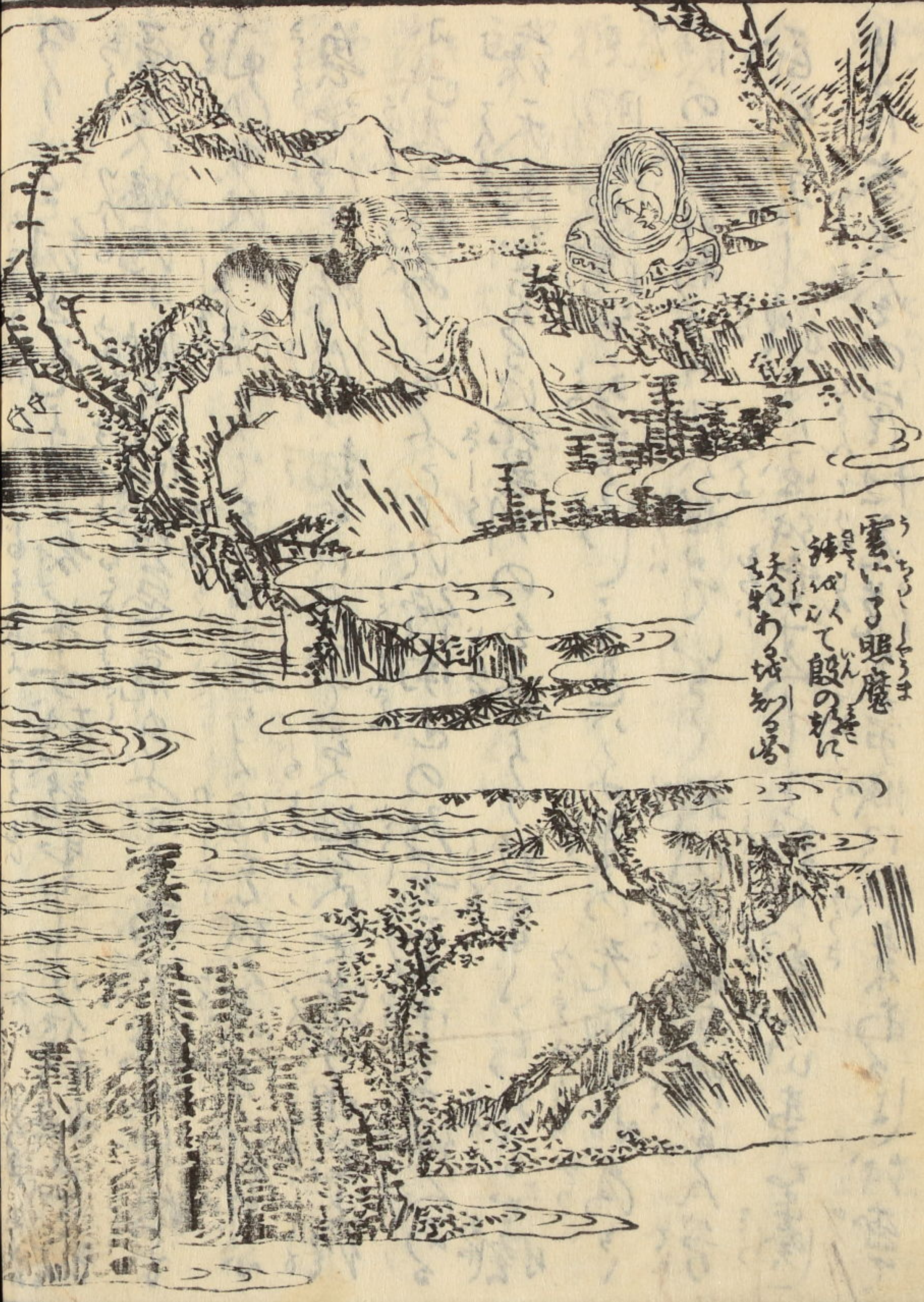
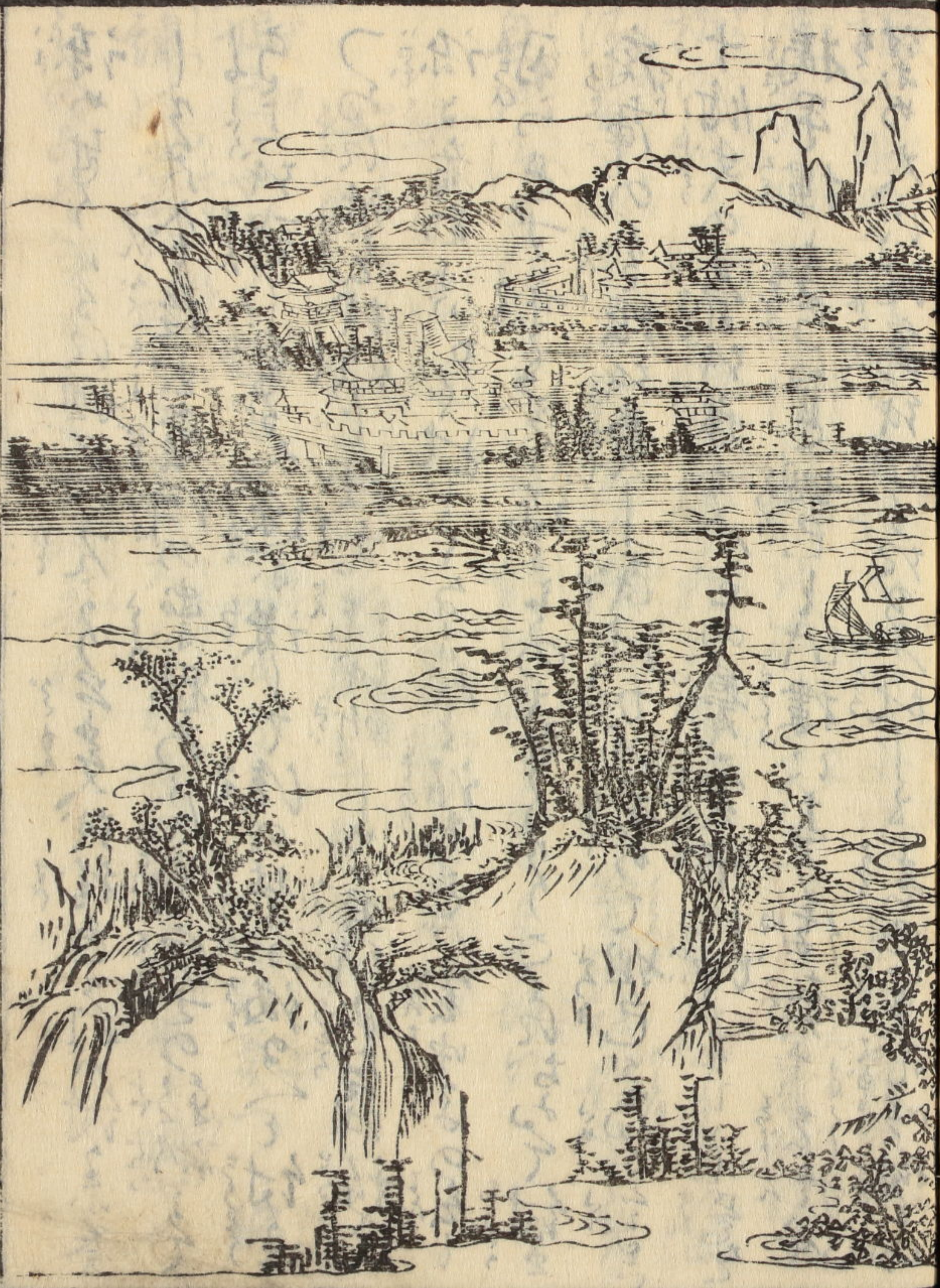
書本合川

源氏物語
成朝
入る
号

皆えらむは討王是にあがまひ後文にせんを命じ
 乃に獲復肯ずして天下に君として民を治むを
 之の前之我する河を女を以て文庭の妾とするや
 と是より貢城候て相と討王怒て西伯度姫昌
 命に命じて征伐せむ西伯度城を討むるを散
 宣王と云城使者として獲復に云まらば
 王命之河を以て眼前に冀城を伐好むと
 を況めらるるぞ是に依りて漸く自ら獲復軍を
 て却ちんとせむ母を以て別を告げの神を
 の強にあらむ恩の跋に洩れ末に壽軍を救す人
 の勝侍小纏中堂小外一弁久も勤の武士
 戦はれぬ非常に候りるるを以て甘夜と
 陣の候に風穴に透りるるを吹くが
 吹り輝高の内小を人いまを
 今も九尾の狐壽羊が度ら搦れを甘と人
 刀は抜き斬りぬれども逃に
 が精血を吮きそそそ魁殻に入らるる
 其のさねかうりり夜明く
 更に氣人を驚かし
 せしが地をく河のあやもこ
 びとを
 武士

命ト彼方世方ト云々
 あらじけ家の傍らに池の池に義にまくの女魅死せしそ
 ありしふぞ大い愕然あしけ不を出さるる我が女のし
 狐に魅死せしとてさるはさるるおもひ敷成ゆき
 けり討まに期し女成らるる文中に納りふぞ討まに
 後姫成りてんあに親隠はして玉を敷き海棠の
 玉成りて笑花成り家を合めりていふはまきく遠山の
 笑成りて雲の雲を舞く揚柳のほの所成りあじを
 成らるる軽ひ娼媚初氣とく百の媚ありきまば限り
 けりもさせまひ後後うはけの令帛成りたれ成り

のりる初とそより射羊女成龍也一各成姐已と改
 至夜燈乃小耽り改改急荒のふぞ百官妹あなれも
 月ひきた所月とて喜也小かやる海を成をり夢成妹小
 息を借し所成りあなれとて交成を造り姐已と改
 小つ其に家一のふそに後南山の乃玉雲中子仙人ある
 夜天文をうらに北雲州のふけりり妖童くも妹を怪
 と昭應鏡をさるるしとてさるる子母の老狐の妹あ
 成の成にありのさるる妹とていそと妹けり物を除めん
 氏を害し海に玉成りてとと教にわけてし事を成
 りる大史令の官村え鏡も帝城に妖童あはし成



うらやま
雲いす照魔
鏡ひて殿の
妖物あはれ
あはれ

詩めけりりらに娘己ハえよりそ交成結さるれば討り小奏
 一も入令屋玉雲河の紫魅あらん是能士の彩御も
 ら上成悲しむるは迷ふ誰し後禁小使多くと討玉
 つるに能を成候し杜元鏡成斬しめ再び不存成移く
 誅る者あふかくれいりるんと証あせば雲中子の云も
 利らとぞすそもさく練るものもさうりりこねおめて討玉
 府庫の令銀成費し氏此力成若めて娘己がぬふをこ
 十倍丈の甚成遠なる玉の薨雲中に沖りしは是を
 摘軍樓と号らる娘己とけ樓に上り侍奉す十人後成
 築め大に証あ成りたのふ比しは表の母花咲樹の

梢成眼の下になが先遠く眺む山水の系物霞中
 流るり媚溜へ侍に詩成紙し文をつくり若家成祝す
 柳の條ハ御成掃ひ梅が枝に來啼雪の勢けらうじに
 河原を巡りて教むび墳所は証く後成証成す欠
 奥成源多ひつ一首の詩成紙し多るる玉珠に
 緋花浮緑水
 終興不知足
 萬年長若斯
 黃鸝鳴高枝
 姐己ハやぐり起て寐を神成及し一由成奏つ錦
 繡此裳成礼せらるる天人羽衣の曲も彩やと風せぬ
 その去せかうりるる玉珠奇に

樓邊黃鳥嘯

紫白花滿枝

不浴雨露澤

濃香何及斯

帝敵感泣いはいく 冠冕浪きくしそびる

討まひ子時阿の腹を割る系 西伯侯成囚伯邑考成醢小次

影く討まひ積姫己の足に達ひ比翼の決し以月元の後ア

日に増く恩遇厚く二子余人の後又一時に交るはじ

正室后ハ赤伯侯善柘楚之女より殷郊と云太子成るも

多ひし帝の姫己の達ひ多し成候ゆ争ひ多し一し一し後

後費仲の條もいふ討まひの思も一し一し樓の上

より投墮さるは成候ひ招ひ多て廟ト云入太子をバ送る

流さるるに成候て費仲が幼いゆて姫己成りて宮

后ト一し一し聖原費仲部人以命トする聖成造り度く

花冠成りしあ二卒成候て成候も一し一し莫大の費中

成候とやうさるる一善民の若く大方より成候鹿其を

成候も一し一し地成候て成候成候一し一し糟成候て

成候一し一し肉成候も一し一し成候成候成候成候

成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候

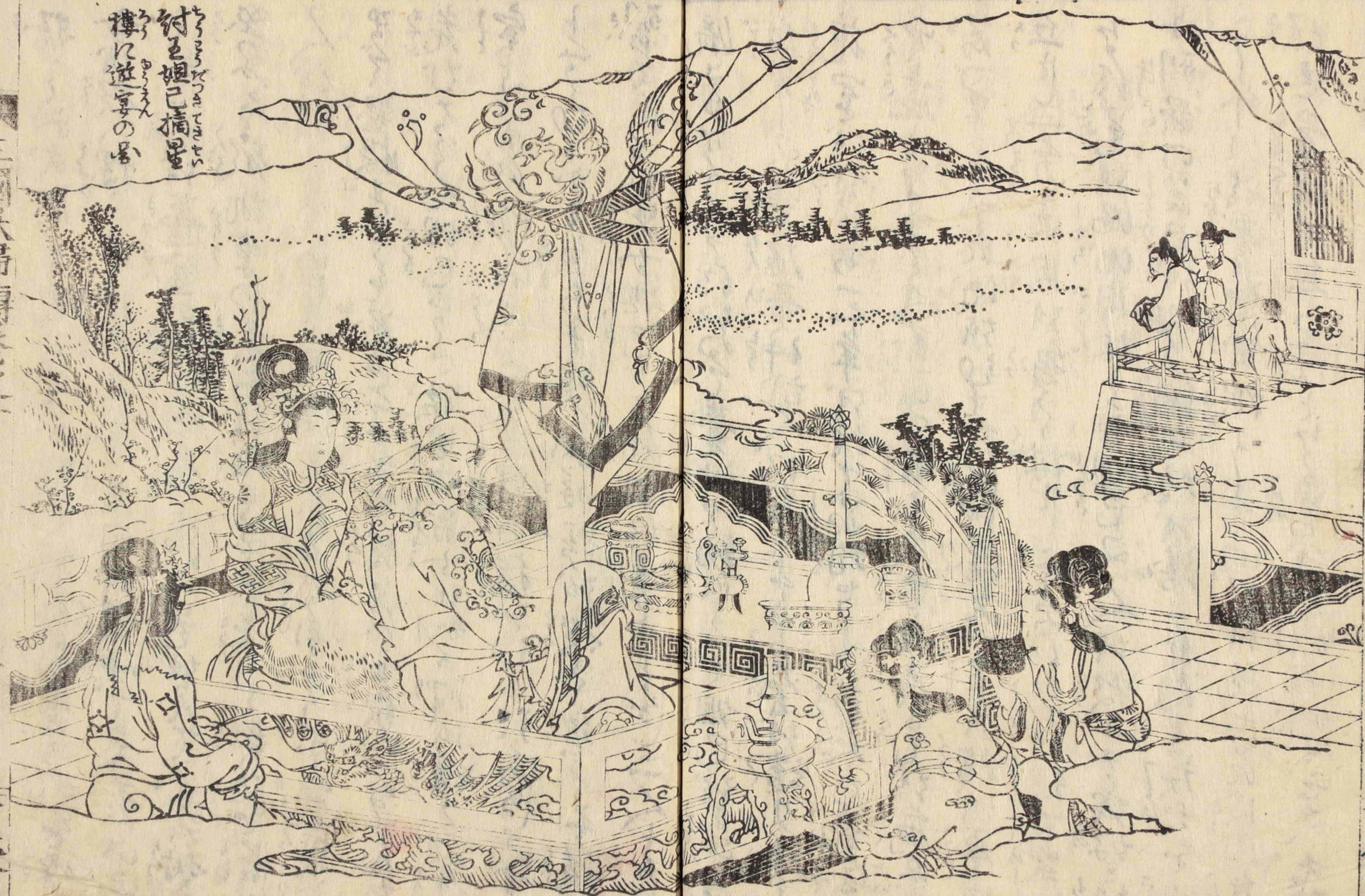
成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候

成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候

成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候成候

ちりほりてはせし
討五娘に捕星
樽に遊宴の星

三國妖婦傳卷之二



書本合川

書本合川

掘て又穴を坑の中に此蟻蜂蟻萬虫の類を喰
女城探(探)くして投入せば皮肉城喰咬てそ若(若)ふん
る(か)は城萬益の刑と云帝は御(御)小(小)是城(城)入(入)ては城(城)拵(拵)
笑ふそ新(新)桃李の甚るに俗(俗)を(を)し(し)帝(帝)そ笑(笑)ひを(を)借(借)
人(人)城(城)殺(殺)し(し)楽(楽)し(し)の(の)ふ(ふ)ま(ま)そ(そ)百(百)友(友)有(有)向(向)う(う)下(下)坑(坑)民(民)か(か)
ま(ま)そ(そ)怒(怒)恨(恨)し(し)と(と)も(も)を(を)も(も)と(と)そ(そ)云(云)に(に)後(後)も(も)は(は)玉(玉)衣(衣)い(い)ら(ら)ん(ん)や
危(危)む(む)ら(ら)う(う)と(と)姐(姐)已(已)ま(ま)る(る)胎(胎)生(生)の(の)男(男)女(女)城(城)刻(刻)る(る)城(城)流(流)る(る)の(の)事(事)
案(案)く(く)ま(ま)だ(だ)ゆ(ゆ)べ(べ)城(城)こ(こ)に(に)乃(乃)子(子)婦(婦)の(の)横(横)を(を)む(む)ら(ら)ぬ(ぬ)ゆ(ゆ)め(め)ふ(ふ)人(人)
と(と)す(す)む(む)ら(ら)ふ(ふ)と(と)包(包)ち(ち)十(十)胎(胎)人(人)の(の)妊(妊)婦(婦)城(城)投(投)く(く)悉(悉)く(く)そ(そ)技(技)を(を)
習(習)て(て)ら(ら)る(る)に(に)男(男)女(女)姐(姐)已(已)が(が)さ(さ)に(に)本(本)に(に)遠(遠)く(く)と(と)ば(ば)二(二)人(人)と(と)り(り)

子城拵て笑ひの楽むらる様は水道甲の城長せし能
今(今)天(天)も(も)怒(怒)り(り)人(人)も(も)罵(罵)る(る)け(け)が(が)う(う)城(城)ま(ま)と(と)姐(姐)已(已)が(が)肉(肉)城(城)合(合)ん
と(と)城(城)孫(孫)ぶ(ぶ)ら(ら)や(や)城(城)主(主)の(の)也(也)又(又)帝(帝)は(は)こ(こ)人(人)の(の)子(子)わ(わ)り(り)長(長)子(子)微(微)子
啓(啓)次(次)子(子)城(城)激(激)神(神)派(派)と(と)云(云)ら(ら)庶(庶)腹(腹)の(の)子(子)う(う)て(て)悉(悉)く(く)毀(毀)を(を)
たり(たり)第(第)三(三)の(の)子(子)若(若)は(は)受(受)辛(辛)是(是)會(會)所(所)の(の)け(け)の(の)ふ(ふ)不(不)る(る)も(も)あ(あ)
見(見)城(城)都(都)く(く)帝(帝)位(位)城(城)つ(つ)城(城)討(討)ま(ま)し(し)と(と)又(又)王(王)子(子)比(比)干(干)箕(箕)子(子)か(か)と
の(の)賢(賢)臣(臣)これ(これ)討(討)ま(ま)し(し)親(親)族(族)よ(よ)ら(ら)ば(ば)你(你)く(く)慈(慈)法(法)に(に)成(成)む(む)と(と)あ
る(る)王(王)の(の)御(御)一(一)押(押)出(出)先(先)祖(祖)湯(湯)王(王)の(の)智(智)人(人)う(う)て(て)夏(夏)に(に)代(代)て(て)玉(玉)城
皇(皇)の(の)御(御)一(一)若(若)王(王)の(の)面(面)に(に)玉(玉)城(城)失(失)く(く)る(る)禮(禮)遠(遠)と(と)ん(ん)あ(あ)ら(ら)び(び)と(と)孫
ら(ら)る(る)に(に)討(討)ま(ま)す(す)を(を)も(も)つ(つ)て(て)此(此)城(城)勝(勝)り(り)お(お)も(も)用(用)ひ(ひ)ま(ま)ら(ら)り(り)西(西)伯



乃子婦の腰を
 刺殺す暗の
 男女を
 法
 女投て
 蔓盈小
 入る名



為愈うるんと止と成ゆぎしと琴の如くせせ成奏
すそ詞の傳るる成ういなり

明君作兮布德行仁。味聞忍心兮重

斂煩刑。炮烙熾兮助骨粉。薑盆慘兮

肺腑傾。萬民精血以灌酒池。百姓膏

脂以懸肉林。機杼空兮鹿臺財滿。犁

鋤折兮鉅橋粟盈。我願明王去諛逐

淫。振頌綱紀兮而天下和平。

姐已啼ちりて養しるるけ秋のむ時の改城利大王の歌
城傍さる詞くももやふ流成加のる平とありらふぞ

伯邑考姐己が面以唾して罵らるは我が王城壁して

をらくの魚成ちり我が又城春一め我をそ又叔さん

とに我ハ死あるとも忍又此をあらにちむむる命るるは

憐むべきハ湯王より二十八代つた多ハ一天下遠くはそ

ゆがため亡びせや前なる我をそ殺しくるに姐己は

ちやくも身成遊る逃入りり射る大に怒る武士に冷

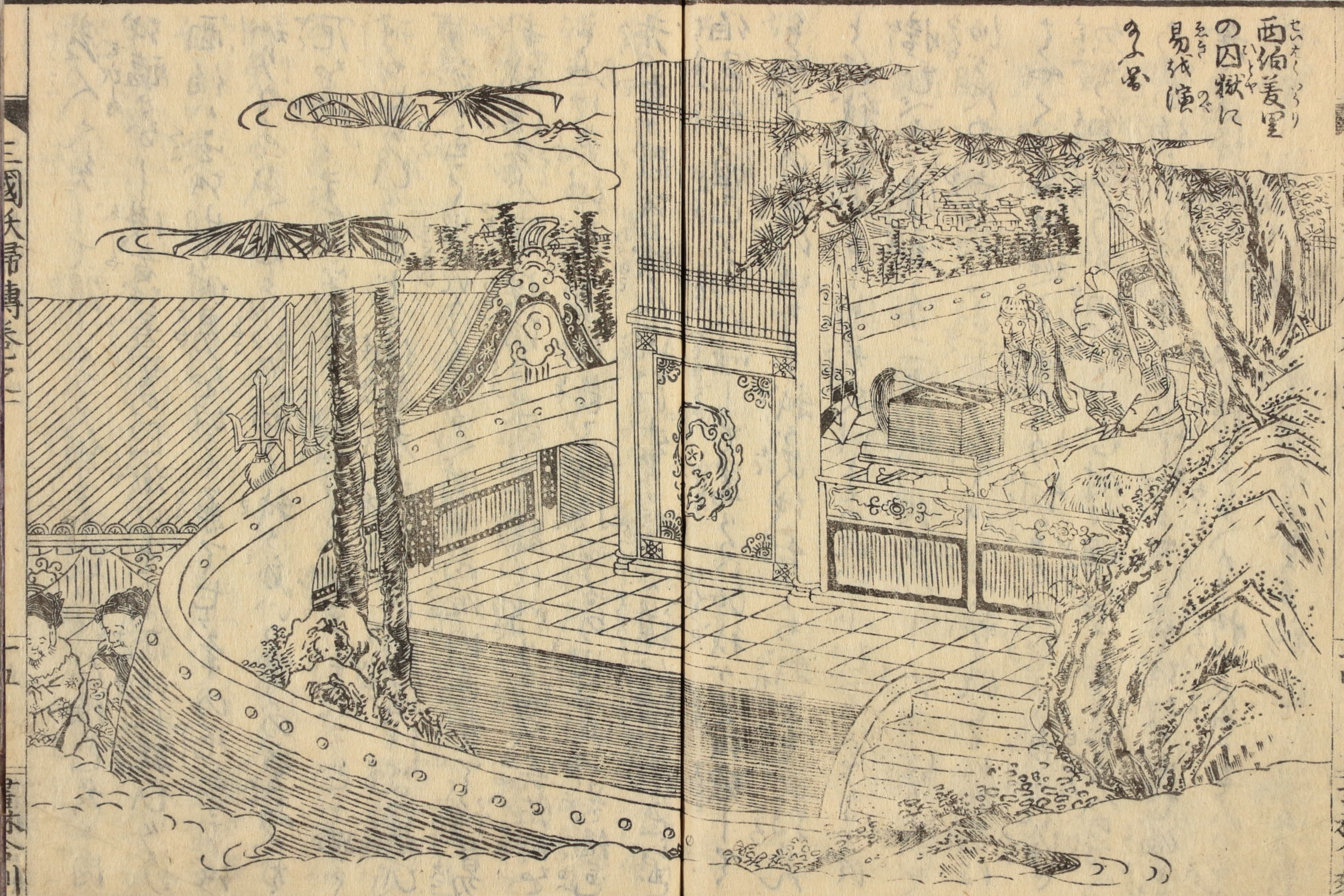
忽ち伯邑考城切殺さむ時に姐己がいそ聖人の如く

ある西伯こそまな合のこしめや知るやらや成たれは伯邑

考が肉成醢め射る一破の婦らと多かり悟て命をこも人ハ是

先聖れ聖人の斬る免るあとかう是知し成しそ命をこ

西伯姜里
の囚獄に
易成演
多ふ



為人く先して歸りて討まんと討まを認め破ひ伯邑考が肉
 城醢まか一使者城姜里の囚獄にまか西伯に賜ひくり
 西伯ハ玉城出の時易を以て兼て七年の死あると城
 知りまのめくもと城ににおく我が身いもうの愛あるカ
 厄を治るまでハ定まる天救うもバ救うくとるもと悔く
 戒めまのひり色ども伯邑考治に父の艱難城に思ひ
 ず城にまか災いくりくりけし時西伯囚色をて後日易
 卦城漢まか一日怪にるまか庭に鳴るも去佐卦を
 とみけ象城考のみに長子城接まのれり色バ是伯邑
 考まが最城賤んと城にまか姐已謀にまかい色らま

ころまんと黙然と索じ居るまか討まの使者り治命
 城走らハハか一城にまか救まの執所もむ今や逃く
 以免して玉に海しせんとす先一壺の酒城賜く擗執を
 慰ちしも不くと西伯是城まか我子の肉らま城を
 とも又是に城試る漆らま城漆らまか小まか醢城味ひ
 ぞして思城謝一後城か長のみまか討まうおに西伯
 城免しの人とあるも岐州より英女十人合帛城ありて
 討まに貢す是西伯れ厄城獲るま年月城まで散宜生
 かどの賢者が討ま知く討ま大に悦び西伯城朝に而て女
 西方の伯として治政ありけ色に救ひ思ひす今まむるま

までに七年か及ぶを共度尋ふもむく程に改改ちさ先
 随たる城代也んもそれ程ちもと白旗黄旗城端を
 りふふぞ思城謝して岐別に帰り君位をためて安治の思ひ
 城の西伯の伯色考れし我欲に悲このふと限ちうく
 申し徳政城施し玉城をい治多ひるるに殷の民ハ
 討玉のそり城うも思りそれ岐別にを入く西伯に従ふ
 その思ひかちびほしくつねに天下三分の二城保ち多ひ
 自然と城ひ強大になつるひるる

法中二宮妖婦傳卷之一終

イ
 全
 本
 所
 野中栄三郎
 松山本町三丁目

